
始まりの魔法使いと運命

ハル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

始まりの魔法使いと運命

【NZコード】

N8042N

【作者名】

ハル

【あらすじ】

男は死んだ。それに理由なんてないし事情もない、よくある有り触れた事件のような死に方だ

そんな彼は生前のつまらなさを憂い神の玩具になることを承諾する
行先はFat e、チカラはラスボスクラス
——では、せいぜい神を楽しませるとじよつ

プロローグ（前書き）

今夜2作目の新作投稿のハルさんでございます

Fateファンに怒られないとよいですね…………びくびく

プロローグ

さて、いきなりだが俺というちっぽけな一個人の話に僅かでも良いから耳を傾けてほしい。なに、時間は取らせないさ

俺は平々凡々を体現したかのような至極普通な何処にでも居る一般人だと自負している。事実、周りからの評価も大差ない

強いて挙げればサブカルチャー、所謂、マンガやアニメといったものは人並み以上に詳しいと言つた特徴も無くはないかな

なにが言いたいか、と? そうだな、最後に現状の確認といかせて貰うとしよう。そら、時間は掛からなかつただろう?

俺が今現在存在しているであろう場所は、前後左右斜め上下に至るまでが全て白でホワイト一色と呼べる。ちなみに地平線の彼方が見えるほどに見事に物が視認できない

そんな中、俺は生前と同じ姿形にて今思考に耽つてゐる……あ

あ。今の言葉でわかつてもらえただろうか

俺は死んだ

死因？ 一家心中だよ、父が借金を作ったのが発端という三流小説にでも見受けられそうな理由でな。全く以て馬鹿らしい

まあ特に今生に未練はなかつたから構わないがな。目立たず地味に成り過ぎず、多くも広くも少なくも狭くもない交友関係だった

故、俺を表面上は悲しむ奴らは居よう。しかし日が経てば忘却の彼方へと追いやられる、俺といつのはそれだけの価値しかないのさ

「ふーん、中々に愉快な思考回路してやがんな」

……驚いたな

ああ生前にも片手で数えられる程にしか驚愕した経験はない、だからこそ驚いた

少なくとも俺が生きていた頃には見ることがないからな——人が空中から此方を見下してくるなど。いや貴重な体験をした、活か

す機会は永久に無いだろうが

「まあ良いや。おいお前マンガとか好きなんだろ
俺は神様でチカラとかやるからもう一度人生やり直せ
ちなみに確定事項だから返答は聞いてねえ
ついでお前は俺が殺した、ミスとかじやねえからそこそこ履き
違えんなよ」

了解した、チカラとは何をくれるのだろうか

「おうおう話がスマーズで良いな、それでこそ人間だ
今までの奴らは喚くばつかで五月蠅かつたから余計にな」

生憎とこいつた性格なんだ、感情が無い訳ではないが平均より
も希薄でな。それで

「わあつてゐよ、行き先はF a t eつー世界だ
あそこで俺様の暇潰しのために暴れてこい、お前は従順だから能力
くらいは決めさせてやんよ」

有り難い。では暫し待つていただけるだろうか、考える時間を頂
きたい

「時間の流れなんぞあつてないようなモンだ、気にしなくても問題ねえよ

ちなみに決めないなら強制的にDiabolosの聖遺物だかんな」

把握した、でなじうこったチカラにするとしようか……

IJの様な状況は生前にも一次創作と呼ばれるジャンルの小説にて
経験済みだ

なりばチートと呼ばれるような能力を要求するのが吉なのだろう、
彼方も「暇潰しのために」と言っていたのだからな

となると個人で無双の武を發揮するよりは組織だった世界征服系
が望みだらうか、ふむ……

では——のチカラを戴きたい

「ほら、良こんじやねえの。しかしあは変わつてゐるよお前

褒め言葉と受け取らせてもらひつよ。あつこで少々の魔改造を
お願いしたい

「俺に指図すんな、まあ面白がつだから不問にしてやるナビよ。ほ
りよ」

感謝する、これで貴方を満足させられれば良いが

「今までの奴より期待は出来そうだな、んじゃ行つてきやがれ」

足元に穴か、王道だな

そして俺は得たチカラと共に元いた世界から見て異世界へと降り立つ、ただ彼を楽しませるためだけに――

プロローグ（後書き）

感想・指摘・批判・評価・お気に入り・レビューお待ちしております
す

始まりの魔法使い（前書き）

今日は……………今回も、短めです
では

始まりの魔法使い

まず俺に意識が戻ったとき、そこに在るのは「無」だけだった。

神よ……まさか創世記か？——こほ。確かに俺の授かつたチカラならば良いのかも知れないが

仕方がない、とりあえず世界を造る所から始めよう。使用用途は魔法世界の再現ぐらいにしか思つていなかつたのだがな

まずは「鍵」を想像する、巨大で強大なチカラの形。それが「鍵」だ

その名を「コード・オブ・ザ・ライフメイカー
造物主の鍵」という

とある魔法使いの少年が教師をするマンガにて、ラスボスであつた造物主のチカラだ

作中では特に戦闘力は明かされなかつたが、描写から推察するにラカンよりは強くナギと同等には強いのだろう。それとおそらくが全ての魔法を使えると見て問題はないはずだ

……Fate世界から見たらかなりハチャメチャだがな。魔法の域である飛行を難なく行つたり、一時的に雷の上位精靈と化す等々

まあどうあえず創るつ、俺は魔力量も造物主並になつていらし
いからな。実質無限に等しいと思うのは間違つていないだろ？よ

うん、思考の片手間に創造してみたが意外と可能なんだ
な。銀河系の誕生だ

……そういえば、ベースとなる惑星がある訳でもないのだが。
何故に創れたのだろうか

未元物質のようなモノでもあったのか、はたまたチリやガスを媒介として創造したのか……創れたのだから良いか

まあこちらの世界は放置しよう、原作Fateと同じになるように。その代わりに火星ベースに魔法世界を作り、俺はそちらに住もう。たまにこちらにも顔を出さなければだが

ふむ、やはり魔法世界は明確なイメージがある分つくりやすいな。次は魔法世界の生命の創造を行おう

原作で生命を生み出すシーンがなかつたので生命は創れないのではないか、と思つたが創れるのだな

とりあえず人の祖先、そして獣人なども放り込んで……これで後は人類に進化するのを待つのみだな

魔法世界に墓守人の宮殿を創り浮遊させて、と……寝るとしじう。チカラの連続使用で些か疲れた

次目覚めたときにはどつなつてているのやら

……余談だが Fateってアニメ見たくらいなんだよな、問題ないと良いが

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8042z/>

始まりの魔法使いと運命

2011年12月26日21時02分発行